

地震リスク認知の差が地震保険加入の差を生む

「誰が危機に備えているのか：地震保険加入を例に」 藤原 翔

中間報告のポイント：

- ◆ 生命保険の加入が約 89%なのに対して、地震保険の加入は約 32%
- ◆ 地震による被害を心配している一方で、地震保険という備えは利用していない
- ◆ 収入ではなく金融・不動産資産の多さや結婚が地震保険加入を促す
- ◆ 大規模地震の客観的な可能性よりも主観的なリスクの大きさが、地震よりも津波の影響が、保険加入に重要
- ◆ 宝くじを買っていると地震保険にも加入しやすい

変数	確率の差（パーセント）	変数	確率の差（パーセント）
性別（男性＞女性）	4.9	深刻な影響（地震選択）	関連なし
年齢（56-65歳で最大）	15.2	深刻な影響（津波選択）	8.2
学歴	関連なし	権威主義	関連なし
世帯年収	関連なし	道徳性	関連なし
仕事	関連なし	運命主義	関連なし
金融資産	12.4	政治的有効性感覚	関連なし
不動産資産	15.3	ルールの厳格さ	関連なし
住宅ローン	15.3	対応の自身	関連なし
持ち家あり	8.6	即興・思いつきが得意	関連なし
既婚	11.0	将来大きな地震と考えると暗い気持ち	関連なし
子どもの有無	関連なし	宝くじ購入	12.3
震度6弱が生じる主観的確率	9.1		
震度6弱が生じる客観的確率	関連なし		

ひとこと：

- ◆ 家族や資産など、「守るもの」があると地震保険で備えているようですが、地震のリスクとその影響の大きさをどのように見積もっているか、微小な確率に対してどのように反応するのかについての個人差が、加入の差と関連していそうです。